



**「完全循環型社会」達成のための  
既成概念の転換と経済的手法の提案**

日本大学工学部土木工学科

専任講師 知野 泰明

# 1. 既成概念の転換

リサイクル社会の浸透では既成概念による弊害がみられる  
その解決手法の一例として下記の事項を提案したい

廃棄物という概念の存在により使用済みの資源に価値が見出されない  
全て地球上(クローズドシステム内)の資源物という概念の確立

廃棄という概念の存在により使用済み資源の処理に責任感が生じ難い  
21世紀までに廃棄という言葉が死語とする

「捨てる」という概念からの脱却 「次の循環ステップ」へという概念の構築

## 2. 経済的手法の提案

### (1) 既成概念の転換

リサイクルより廃棄の方がコスト安、簡単 状況を逆転させる  
(既得権に損害を与えないように注意)

### (2) リサイクル・ステップ制度(基準, 指標?)の導入

目的: リサイクル概念と制度導入の目当てとして分かり易くするため

#### 「循環資源のリサイクル・ステップ指標」

ステップ0 (天材ステップ) 天然に存在する原材料状態「天然材料状態」

ステップ1 (合加材ステップ) ステップ1を加工し材料へ「合成加工材料状態」

ステップ2 (製品ステップ) 材料を加工した製品状態「製品状態」

ステップ3 (材還ステップ) 製品価値を失い材料へ還元される状態「材料還元状態」

ステップ - 1 (材還放棄ステップ) 材料に戻されない状態「材料還元放棄状態」



# 3. まとめ

(1) 既成概念の転換: 「捨てる」から「ステップ」へ

(2) リサイクル・ステップ制度の導入

(3) 経済的手法

循環資源の移動に対しては必ず代価が支払われること

(ステップの移動は必ず循環するため、不法投棄も抑制できる)

未循環資源の移動に消費者は手数料(負担小)のみを支払、

生産者は手数料(負担大)の支払 + 課税(未循環資源の選択責任として)

循環資源の移動に手数料を払う場合も課税(不法投棄の抑制)

課税による収益はリサイクル技術の開発にまわす(不足は補助金で補填)

(4) 課題

リサイクル・ゾーン内のリサイクル資源の量を把握

リサイクル・ゾーン内と外のリサイクル資源の出入りを監視、コントロール  
(正当な天然資源の投入を行い天然資源の枯渇を防止)

ゾーン内に存在するリサイクル資源の量に応じた資源相場の設定

リサイクル技術開発を促進する課税収益と補助金投入のバランスの検討

自然放出資源(空中、水中、土中)の量の把握、または割合の設定